



西早稲田中だより

新宿区立西早稲田中学校 03(3205)9674

「年末年始を迎えて」

校長 片倉 元次

日増しに寒さに向かう毎日となり、いよいよ年末年始を迎えます。昨年も書きましたが私が住む町の近くには大きな寺社があるので、伝統的な年末年始の風習や行事が身近に感じられます。今年も11月に入ると「酉の市」を知らせる提灯が飾られ、間もなく年の瀬であることに気付かされました。新宿区では花園神社の「酉の市」が有名ですね。

年末年始は大掃除、餅つき、大晦日、年越し、除夜の鐘、門松、注連飾り、初詣、お年玉、鏡餅、おせち料理、初夢などなど…。街角や商業施設はきれいに飾り付けられ、華やかな雰囲気です。しかし、生活の中でこのような諸行事を取り入れている家庭は少なくなりました。しかし、年末年始の様々な風習や行事は今なお大切にされていると言えるでしょう。

UCLAのジャレド・ダイヤモンド教授は『文明崩壊』（邦訳：草思社）の中で文明が崩壊する原因について、歴史が大きくターニングポイントに差しかけた時に「引き継ぐべき価値観」と「捨てるべき価値観」を見極められたかどうかによると述べています。将来に向けての展望が決して明るいとは言えない時代ですがこれから生きる中学生にはそれぞれの見極めをしっかりとできる力を身につけてほしいと思います。

それぞれのご家庭でお正月の迎え方は様々でしょうが掃除、片付け、買い物、調理など、生活の中でこの時季のご家庭でしかできない貴重な体験をさせてあげてください。そうした手伝いを通して、子供たちはいろいろなことを学び成長していきます。一年の区切りを大切に、一年間の無事に感謝し謙虚に反省して、次の年への決意を新たにしてお祝いすること、新しい年を迎えることは現代でもとても大切なことだと思います。

今年も本校の教育活動にご理解ご協力をいただきありがとうございました。生活リズムを崩すことなく、健康第一で年末年始をお過ごしください。七草粥を食べ、松の内が明けた1月8日（木）の始業式に新年の決意を新たに、元気な生徒たちと会えることを楽しみにしております。



<第10回 西早稲田祭>

10月25日(土)に、記念すべき第10回西早稲田祭が行われました。今年のテーマは「LIFE～過去の自分、未来へのバトン～」です。

1年生は環境問題をテーマに、地球温暖化や森林の減少を、工夫を凝らした発表方法で表現しました。2年生は夏休み中に行った職業体験を劇仕立てで紹介し、3年生は、「今を精いっぱい生きる」ことの大切さを、演劇を通して発表しました。どの学年も、限られた準備期間の中で、一人一人が「今、自分にできること」を精いっぱい行ってくれたと感じています。特に、最後の西早稲田祭となった3年生は、約一か月前からメインキャストの練習が始まり、長いセリフや立ち位置を一生懸命覚えしました。その結果、笑いあり涙あり、息の合った素晴らしい舞台を見せてくれました。

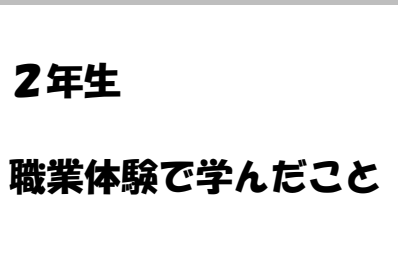
また、各学年の発表だけではなく、書道パフォーマンスや英語での発表、ボランティア活動についての発表、コーラス、吹奏楽など、各部活でも普段の練習の成果を発揮してくれました。特に、今年度西早稲田祭で初めて発表した書道部は、音楽を流しながら巨大な紙に部員全員で文字を書き、一つの作品を完成させるというパフォーマンスを見せてくれました。どの部活も、割れんばかりの拍手を受けながら、大きな達成感を感じたのではないのでしょうか。

保護者の皆様、地域の皆様にもお忙しい中多数のご来場を賜り、誠にありがとうございました。今後とも西早稲田中学校の教育活動にご理解とご協力をよろしくお願いいたします。



1年生

環境問題について



2年生

職業体験で学んだこと



3年生

「今を生きる、
ということ」

参加者を多

数募っての

コーラス

「Fight」



圧巻の書道

パフォーマンス